

2015年（平成27年） 1月 696号

キリストの繋がり

マリノ E. デハクト Jr.

皆さんは携帯電話や固定電話を持っていらっしゃると思います。この便利な道具のお陰で私たちは離れている場所においても互いにつながれるようになっていきます。現代ではインターネットによって声だけでなく相手の顔を見ながら話すこともできるようになりました。私のように外国にいる人たちにとっては本当にありがたいことです。私の先輩の話によると、20年以上家族の顔を見られなかったのが、帰国した時に自分の兄弟も分からなかったことがあったそうです。今ではそのようなことはないと思います。便利な世界になったことで皆さんも恩恵を受けていることと思います。どこにいても電話番号を押すだけで大切にしている人の声をすぐに聞くことができるでしょう。日本は通信だけではなく交通機関も発達しているのでも離れている場所でも身近に感じるすることができます。交通手段を上手く利用すれば人間関係も強くすることが出来ると思います。例えば、遠い所で働いている人たちでも早く帰宅して家族と一緒に過ごす時間が増えるでしょう。数年前までは海外で働いている人たちは家族からの手紙を何週間も待たなければなりませんでした。今は伝えたいメッセージがあればインターネットですぐに伝えることができます。このように見ると世界はより良くつながっているとと言えるでしょう。

ヨハネの福音書の15章1～8節ではキリスト者にとって、もっとも大切なつながりを述べています。それは私たちと主キリストの間のつながりです。この箇所では私たちは誰とつながっているのか、問い掛けられていると思います。皆さんが思っている通り私たちは洗礼を受けたことにより主イエスと確かなつながりを持っています。しかしそのつながりの強さはいかがでしょうか。私たちはどこに行ってもキリストを信じていると告白することができるでしょうか。私は大学生の頃よく外食をしていました。家庭で食事する前に十字をきることは自然なことでした。しかし、かつては外で仲間と一緒に食事する時に十字架のしるしをすることが難しく感じたことが度々ありました。周りの人たちも信者なのにどうして恥ずかしがったのか自分にも分かりませんでした。このような小さな試練でも私たちの信仰を成長させるために役に立つので、乗り越える努力が必要です。私の上げた例は簡単すぎるかもしれませんが、私たちは日常生活の中で自分がキリスト者であることをもっと積極的に表すべきだと思います。そうすることで私たちのいただいた信仰を他の人たちに伝えることができるからです。教会の中だけではなく自分がいる場所でキリスト者として

の生き方ができれば、これこそ主キリストとつながっているとと言えるでしょう。自分がキリスト者であること表すことは勇気が必要だと思います。特にキリスト者が少ない学校や職場などで信仰を表すのは難しいことでしょう。それでもそのことは私たち一人一人の使命なのです。私たちはいつ、どこでもキリスト者であることを忘れてはいけません。